

大阪府立千里高等学校
令和元年度 第3回学校協議会 会議記録

○ 日時 令和2年2月27日(木) 16:00~17:00

○ 会場 校長室

○ 出席者

(学校協議会委員)

和田 良彦 大阪教育大学 副学長 教授
小林 太郎 吹田市立竹見台中学校 校長
高木 学 江坂・起業家センター代表取締役
大森 万峰子 千里高校 学校薬剤師
木村 功 PTA 会長
橋本 和正 後援会会長

(学校側)

校長 天野 誠 事務室 主査 小林 俊雄 首席 大西 千尋
進路指導部長 本間 直也 SSH 主担当 岩井 清

(事務局)

教頭 山下 尚紀 教育情報部長 松井 活夫

○ 議事概要

(1)学校経営計画の評価について

- ・「確かな学力の育成及び希望進路の実現」
「授業についていける」「ICT機器を授業でよく使う」「『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」
「希望する進路を実現するための講習が充実している」など昨年より数%向上
- ・「豊かな人間性の涵養」
「千里高校に入学して良かったと思っている」「悩みに応じてくれる先生がいる」など昨年より数%向上
- ・「教員の指導力の向上」
「学習の評価について納得できる」など昨年より数%向上。また12月にはパフォーマンス評価をテーマに研究授業及び研究協議を実施

(2)SSHの取り組みについて

- ・校外でのプレゼンテーションの機会を増やした。次年度はさらに増やす予定。
- ・SFGに対する京大の先生の講義(ブラックホールに関するもの)では多数の質問が出た

(3)SGHの取り組みについて

- ・机上の研究から行動に移すことを促す。Table for twoでは食堂と連携し、途上国の給食代支援につなげる。また、フードドライブの取り組みでは食品の提供があった。その他NGOと連携し現場取材をする取り組みがあった。
- ・国際シンポジウムでは多くの生徒が刺激を受けた。

(4)進路指導の状況について

- ・センター試験の結果は近年では最もよかった。国公立の出願数は昨年に比べ30%増加
- ・若竹セミナーでの大学生によるチューター制は参加者が少なく検討が必要

○ 協議

- ・ I C T環境のさらなる充実を図ってほしい → プロジェクターを全教室に配置予定
- ・ 自己評価が 80%を達成しているものについてはそれ以上高めることはむつかしいのではないか
- ・ 2年生国際文化科の自己肯定率の低さをさらに分析し指導に活かしてほしい
- ・ 教員の自己評価についても今後分析してほしい
- ・ 授業以外で学力を向上させる取り組みについて考えてほしい

最後に次年度目標を承認し閉会